

第54回全国道場少年剣道大会

2019年7月29日(月)～7月30日(火) 日本武道館

小学生の部・中学生の部出場決定

7月29日から日本武道館で開催される「第54回全国道場少年剣道大会」への出場を決めた神川剣道スポーツ少年団。全国大会出場は9年連続となる快挙。



前列左から ▶ 桑原陽翔 畠中胡羽 木場麗愛咲 福岡真咲 福岡斗馬 米永義悠
 中列左から ▶ 松山翔馬 菖蒲理心 岡元美空 桑原千陽
 後列左から ▶ 畠中宏明 木場龍飛 内蘭農 木場真愛耶

神川剣道スポーツ少年団
 KAGOSHIMA

神川剣道スポーツ少年団 1980年設立

稽古日時 毎週月・木・金 18:00～20:00
 (火曜日は錦江警察署武道館)

見学/体験 町総合交流センター3階で見学や体験可



剣道は人間形成の道 諦めない「心」を育てる

「夏場の練習は暑さとの闘いで、防具を付けての練習は今でもきつい。続けられるのは、仲間と全国制覇の夢があるから」と照れながらも決意は固い。

「毎週火曜日は錦江警察署の武道館で練習させてもらってます。警察署で練習すること自体が貴重な経験でもあり、憧れの警察官やパトカーに興奮する子どもいます。中学生にとっては、自分より大きな、しかも技術や経験のある人に稽古を付けてもらえるうえ、年代や経験年数に応じて個別に指導してもらえます。周りの協力に助かっていいますね」と日ごろの感謝を込める。

「練習時間は週に4回。1回あたり1時間半と決して長くはありません。遠くは鹿児島市内から通ってくる子もいますし、もちろん勉強も大事なので、でき

「心」を育てる武道
 現在、チームをまとめるのは、主将の内蘭農くん(錦江中3年)。これまでのチーム成績は全国でベスト16が最高だ。同級生の誘いで始めたという内蘭農くんだが、始めたころは小手を打たれるのがとにかく痛かったそう。

「全国の大会出場や、勝つ喜びを経験することも大切なことですが、それだけが目的ではありません。剣道を通じて、相手への感謝や思いやりの気持ち、仲間との絆、そして、これから社会に出ていく子どもたちが、どんな苦難にも立ち向かっていく諦めない心を育てたい」と監督は思いを込める。

今年、日本武道館で剣道日本一が決まる。神川剣道スポーツ少年団の活躍から目が離せない。



神川剣道スポーツ少年団
 桑原直也 監督

1 チームをまとめる主将の内蘭農くん。小学1年生から剣道が続いている2 錦江警察署の剣道経験者が稽古を付けてくれる3 上級生が下級生に防具の付け方や技、あいさつの大切さを教える4 5 基本となる素振りや地稽古は欠かせない6 黙想して精神を統一し集中力を高める



けんびー
 がんばるぞ

受け継がれる「技」

6月に開催された県予選を勝ち抜き、今月29日から日本武道館で開催される、第54回全国道場少年剣道大会への出場を決めた。神川剣道スポーツ少年団は、約40年前に設立され、現在は小学生10名、中学生6名の16名が所属している。

「練習時間は週に4回。1回あたり1時間半と決して長くはありません。遠くは鹿児島市内から通ってくる子もいますし、もちろん勉強も大事なので、でき